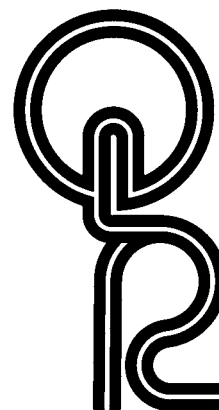


# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol. 19 No.1, 2012



インド西部、デカン高原におけるインドネシア起源のトバテフラ (久保純子撮影)  
(左) デカン高原の玄武岩台地を流れる Karha 川 (クリシュナ川上流域)  
(右) Karha 川沿い、Morgaon の露頭におけるトバテフラ。厚さ約 15cm Morgaon のトバテフラは Karha 川沿いに分布する黒色粘土層下部にみられる。この粘土層から Acheulian の旧石器がみつき、テフラの年代も中期更新世の 670-799ka (Ar-Ar 法) という主張と、後期更新世の 74ka という主張の両方がある (Westaway et al. 2011, J. Earth Syst. Sci. 120: 503-530) (Indian Academy of Sciences)。

---

---

Vol. 19 No. 1

February 1, 2012

---

---

2012 年大会案内・・・・・・・・・・ 2  
第 3 回幹事会議事録・・・・・・・・ 2  
会員名簿発行遅延について・・・・ 3  
J-STAGE への最新号掲載について・・ 3

教員公募・・・・・・・・・・・・・・ 3  
第四紀研究投稿規定の改定にともなう  
補足説明・・・・・・・・・・・・・・ 4  
会員消息・・・・・・・・・・・・・・ 4

## ◆日本第四紀学会 2012年大会案内 (第1報)

日本第四紀学会 2012年大会は、下記の日程で実施される予定です。  
詳細や発表の申込方法などにつきましては、次号の第四紀通信に掲載いたします。

「熱い討論 第四紀学会 2012年大会 in 立正大熊谷」

開催期間：2012年8月20日(月)～8月22日(水)

開催場所：立正大学熊谷キャンパス

日 程：

8月20日(月) 一般研究発表(口頭およびポスター)・評議員会

8月21日(火) 一般研究発表(口頭およびポスター)・総会・懇親会

8月22日(水) シンポジウム(「南極氷床コア解析からの第四紀情報」を中心とするテーマを検討中)

8月23日(木) 巡検(「荒川流域」(日帰り)を中心に検討中)

一般研究発表の一部はセッション制とし、2会場で行います。議論の時間を十分に取りたいと考えています。ポスターは2日間続けて掲示出来ます。

## ◆2011年度第3回幹事会議事録

日時：2011年12月25日(日) 14:00～17:20

場所：早稲田大学教育学部 1029 会議室

出席者：遠藤、小野、竹村、久保、長橋、植木、出穂、須貝、北村、水野、奥村(学術会議)

(報告事項)

1) 2012年学会賞・学術賞受賞候補者、論文賞・奨励賞受賞候補者の推薦依頼について第四紀通信に掲載して、会員に呼びかけた。また、学会賞選考委員候補者10名、論文賞選考委員候補者13名を選定し、投票用紙を評議員に送付した。

2) 最近の第四紀研究論文のPDFファイルの転載依頼が1件あり、審議の上、許可した。

3) 第四紀通信第18巻6号を編集し発行した。

4) 第四紀研究第50巻5号、6号を刊行、51巻1号を編集。手持ち原稿は、13編。徳島大会特集号「環太平洋の環境文明史」は、13編の論文予定。学会賞と学術賞受賞記念論文は、2010年度分4編のうち2編は投稿済み、2011年度分4編については投稿依頼済み。51巻から印刷紙が変更となる(紙代はこれまでと同額)。改定した投稿規定(2012年から実施)に対応して、投稿時に提出する電子ファイルの形式をPDFファイルとする。電子ファイルの書式を含む投稿規定の改定にともなう補足説明文案について検討を行った。編集書記の後任人事について、学会HPで公募文書を公開した。

5) 2012年1月21日の学術賞受賞者講演会(前田保夫会員)とシンポジウム「ヒトと自然の相互関係を読む：縄文時代から古代まで」(奈良女子大学)のプログラムを確定し、第四紀通信等に掲載した。

6) 科研費による東四国でのアウトリーチ活動の一つとして、2012年2月4日(土)～5日(日)に「新たな視点で東四国の自然の価値を発見しよう」と題する巡検(バス1台)とミニ講演会を企

画した。

7) 2012年大会は8月20日(月)～22日(水)、立正大学で行うことになり、立正大学との共催とした。講演会場として2会場、それとは別に2部屋を確保してもらうことにした。シンポジウムのテーマについては提案されているが、セッションや巡検については未定で、要検討。

8) 地球惑星科学連合関連報告：代議員選挙結果が報告され、4セクションで12名の学会推薦候補者が当選となった。次回連合大会は2012年5月20日～25日：幕張メッセ。セッション提案については、『ヒト-環境系の時系列ダイナミクス』を単独開催し、『活断層と古地震』、『平野地質-第四紀層序と地質構造-』を主催するほか、『ジオパーク』『人間環境と災害リスク』を共催する。ポスター発表1件に3分間のプレゼンタイムが口頭発表枠内に確保される予定となった。

9) そのほかの渉外報告：第5回地質の日事業推進委員会が11月2日産総研東京本部で開催された。ポスター印刷・発送代などの費用にあてるため、学協会・個人へ寄付金(1口1万円ほど)を募ることにした。自然史学会連合総会が12月17日中央大学で開催され、事業報告と次年度計画の説明があり、会計・監査報告が承認された。主な報告内容：加盟団体现在39、文科省の「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」の一部改正案について意見書提出、ホームページリニューアル、講演会2回、共催シンポジウム1回、後援フォーラム1回、次期連合代表選挙結果報告。

10) 学術会議関連報告：地球惑星科学委員会INQUA分科会のメンバーが確定した。INQUA国内委員会の体制についても見直す予定である。INQUA執行委員会、研究委員会コミッション役員が発表された。日本からのコミッション役員が不在でメンバーも少ないので、補強する必要があ

る。プロジェクト提案も積極的に出してほしい。国内の研究委員会との対応も必要である。IUGS がカラブリアンの基底の GSSP (Global Stratotype Section and Point) をイタリアの Vrica に認定した。

(審議事項)

- 1) 第 2 回評議員会の内容と資料の作成スケジュールを確認した。
- 2) 会員名簿の校正については、明らかな間違いの修正、退会・逝去者の削除以外は行わずに、早めに出版することを確認した。
- 3) 研究委員会の提案については、現在準備中のものがあることが指摘された。また関係者に積極的に呼びかけることとし、研究委員会の提案締切を延長することにした。
- 4) 名誉会員選考委員候補者及び次期法務委員候補者について検討した。法務委員は役員交代の時期にあわせて、次の任期を 2013 年 7 月 31 日までの 1 年半とする方針を提案することにした。
- 5) INQUA 組織委員会に渡す準備金は、主に委員の旅費に充てるため、INQUA 招致のパンフレット印刷代については、別に INQUA 対策費から支出す

ることとした。

6) 新しい学会ホームページ用のサーバについて、借料などの比較を行い、レンタルサーバを利用することにした。

7) 京都国際地理学会議セッション提案について渉外委員会としても検討中であり、加藤茂弘会員(上記会議組織委員会第四紀学会代表委員)から内陸活断層の古地震学セッションについて呼びかけがあった。メインテーマや全体のプログラム、ほかの学協会との調整などが必要であり、継続して検討することとした。

8) 日本地質学会大会での共催シンポジウム「関東盆地の地質・地殻構造とその形成史」及びトピックセッション「関東平野の更新統層序とテクトニクス」での発表内容を中心に、地質学雑誌に特集号を組みたいという提案が世話人から出され検討した結果、それを了承し、詳細については第四紀学会側の世話人である鈴木毅彦・水野清秀両会員に一任することとした。

9) 次回幹事会は 3 月 31 日(土)に INQUA 組織委員会幹事会と同日開催の予定で、調整する。

### ◆会員名簿発行の遅延について (おわび)

日本第四紀学会会員名簿はこれまで 3 年ごとに発行してまいりました。現在の最新版は 2007 年発行で、2010 年 6 月に会員の皆様へ名簿記載事項の調査をいたしました。個人情報を扱っております関係で、編集作業が遅れております。4 月に皆様へお届けの予定ですが、発行が大幅に遅れておりますことをおわび申し上げます(幹事会および事務局)。

### ◆J-STAGE への「第四紀研究」最新号掲載について (おわび)

会員は、J-STAGE で「第四紀研究」の最新号を閲覧することができるようになっております(会員のみ配布されたパスワードが必要ですが;パスワードは会員名簿に記載)。

[http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jaqua/47/4/\\_contents/-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jaqua/47/4/_contents/-char/ja/)

しかしながら、2012 年 1 月 1 日時点では、47 巻 4 号(2008)が最新で、その後の更新が遅れております。現在、50 巻 2 号までは準備作業が済み、リンク先などの修正を J-STAGE に要求中ですが、J-STAGE 側の対応が遅れております。会員の皆様にはご不便をおかけいたしますが、もうしばらくお待ちいただきますようお願い申し上げます(幹事会)。

### ◆京都大学大学院理学研究科 地球惑星科学専攻 地球物理学分野 教員公募

- ・ 固体地球物理学講座
- ・ 教授・1 名
- ・ 締切:平成 24 年 2 月 17 日(金) [必着]

詳細 <http://www.kugi.kyoto-u.ac.jp/news/pdf/koubo111205.pdf>

## ◆第四紀研究投稿規定の改定にともなう補足説明

2012年から実施します投稿規定と執筆要項の全文は、第四紀研究 51 巻 1 号に掲載しています。また、第四紀通信 18 巻 5 号には、新旧の投稿規定と執筆要項を並べて、改定部分を示しました。

改定の要点は、1) 投稿時に電子ファイルをつけること、2) 校正時の著者責任による図・表等の差し替えにかかる費用は全額著者負担となること、3) 別刷の費用の学会負担が無くなり、PDF ファイルが論文責任者に提供されること、4) 原稿に行番号をつけること です。このうち、1) と 3) については、以下に補足説明を加えます。また、3) に伴って送り状も修正しています。修正した送り状は第四紀研究 51 巻 1 号に掲載しています。

なお、新しい投稿規定・執筆要項、改定にともなう補足説明、送り状などは、第四紀学会のホームページでも確認・ダウンロードすることができます。

第四紀研究に投稿する際は、投稿規定・執筆要項と共に今回お知らせしました「投稿規定の改定にともなう補足説明」もご確認ください。

### 1. 「4. 投稿手続き」の改定に関して

新しい投稿規定では、原稿等と共に電子ファイルを送付することとあります。これを付け加えたのは、担当編集委員と査読者や著者とのやり取りにかかる時間を短縮するのが主な理由です。この電子ファイルの形式は PDF (Portable Document Format) 形式とし、CD に保存して送付してください。また、PDF ファイルは、原稿や図・表のそれぞれについて作成してください（複数作成した図・表も個別の PDF ファイルにする）。なお、受理となった後、印刷所に入稿するときの電子ファイルについては上に述べたものとは別の対応となりますので、担当編集委員と編集書記からの指示に従ってください。

第四紀研究ではこれまでになかった取り組みですので、なんらかの問題が起こることも予想されます。編集委員会としましては、経験を重ねつつ、より適した方法に改善していきたいと考えています。念のため申し添えますが、PDF ファイルを作成できなかったからといって投稿できないわけではありません。このような場合は、編集委員会（編集幹事・編集書記）にお問い合わせください。

### 2. 「8. 別刷」の改定に関して

別刷を希望することはこれまでと同様に可能ですが、その費用の一部を第四紀学会が負担することは無くなりました。別刷の費用については、最新巻の第 1 号に掲載されている「別刷単価表」で確認してください。また、掲載された原稿の PDF ファイルを責任著者に提供します。受け取った PDF ファイルについては、「第四紀学会出版物等利用規定」に基づいてご活用ください。

### ★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：兵頭政幸 (mhyodo(at)kobe-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 神戸大学 内海地域環境教育研究センター 兵頭政幸  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 FAX: 078-803-5757  
広報委員：糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階  
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com 電話: 03-5291-6231 FAX: 03-5291-2176